

秋口ごろから、店頭に並び始めるミカン。市内でも三浦・鈴田・萱瀬・福重地区を中心に、190戸の生産者が121ヘクタール栽培しており、栽培技術や品質の向上を目指して日々研さんを積まれています。これからますますミカンがおいしくなる季節、今年の冬は、ぜひ、大村のミカンを味わってみてください。大村産ミカンは、三浦かんさく市や鈴田峠農園、産直かやぜ、おおむら夢ファームシュシュなどで販売されています。



『歴史の窓』第4窓

■歴史資料館 ☎48・5050

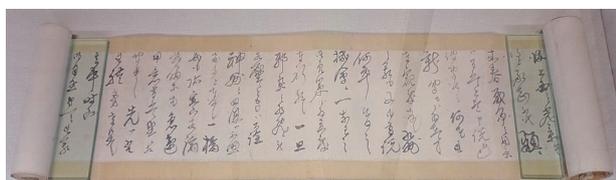
「一縄之策」の実現を願った手紙

今回は、歴史資料館が展示する目玉の一つ、長州藩士桂小五郎から大村藩士 渡辺昇へ宛てた手紙についてご紹介します。

この手紙は、1866年（慶応2年）12月18日に書かれたものです。この年は、1月に薩長同盟が成立し、6月の第二次長州征討で幕府側が敗れるなど、時代が大きく動いた年でした。

倒幕が次第に現実味を帯びていく中で書かれたこの手紙には、桂の倒幕に向けての思いが約2.6メートルにわたりつづられています。

当時、桂のいる長州藩（山口県）に熊本藩士 河上彦斎が滞在していました。河上は、勝海舟の師で蘭学者だった佐久間象山を暗殺するなど、幕末四大人物の一人とされる人物です。その河上が故郷の熊本へ帰ることとなり、桂は渡辺に対して、幕府側である熊本藩を味方につけるため河上に協力してほしいこと、そして渡辺が考えていた「一縄之策」をぜひ九州で実現してほしい、と伝えています。



▲桂小五郎から渡辺昇へ宛てた手紙

Contents

今月の主な項目

- 2 歴史の窓
- 3 アイラブ大村産 地産地消のススメ～ミカン編～
- 4 特集1 密着 大村の漁師
- 6 特集2 おむらんちゃんが専門医に聞く! 糖尿病の予防と治療
- 8 カメラスポット・おおむらニュース
- 9 市政トピックス
- 10 情報ひろば
- 14 健康・福祉・子育て
- 20 もよおし・施設情報
- 22 みんなのひろば
- 24 牧場まつり

州で実現してほしい、と伝えています。

この手紙から、渡辺が考えたとされる「一縄之策」が実際に構想され、しかも桂に伝えていたことが証明されました。また、二人が倒幕に向けて連携していたことがわかります。

この手紙以外にも、歴史資料館には幕末・明治維新の大村藩の活躍を伝える資料が展示されています。

文化の秋、ぜひ、歴史資料館で大村の歴史に触れてみてください。

【渡辺昇】

幕末の大村藩士で、「大村藩勤王三十七士」の一人として大村藩を「勤王倒幕」にまとめる。

長州藩の桂小五郎とは、江戸の三大道場「練兵館」で兄弟弟子だった。



【一縄之策（ひとなわのさく）】

細い紐をより合わせて一本の強い縄ができるように、強大な幕府を倒すためには各藩が連合して当たるべきだとする、渡辺が構想した策。

桂小五郎から「御良策」と評され、手紙の中にも出てきた。

